

中村武羅夫

片上天弦氏



片上天弦氏



色の白い、眼の神経質的な、好く言うと言物静かな、悪く云うと話をしても何をしても煮え切らぬような人である。些つと見は女のように静かである。声なども細い。話して居っても妙に超然と澄したようなところがある。初めて会った時には、余り口数をきかれない。むつつりと黙って笑うことも少ない。それは態度が然う見えるので、心から然う澄した人ではあるまいけれど、縦し、態度だけにしろ、余り好い感じがしない。天弦氏はおとな

いい人である、物静かな人である。が、些つと会っただけでは、只、それだけの人にしか見えない。然し心の中は然うした単純なものではあるまい。矛盾あり、煩悶あり苦痛ある人であろう。それを、その態度に現わさないで、じつと腹の中に秘めて居るのは、ねばり気が強いからだ。天弦氏には反撥力と云うものがない。外部から圧え付けられて、その強い圧迫をひしひしと感じながら、それをじつと内部にしめて、決して之れを反撥しない。天弦氏は軟らかく強い人である。消極的に強い人である。おとなしい物静かな人と見えるのは其故である。心の中

は混乱して居る、動揺して居る。それを少しも外部に現わさないのが天弦氏だ。如何なる煩悶懊惱も、自分の腹の中で必らず所決して了う。苦痛を叫び、救を求めてあせる人ではない。天弦氏は自分一人で苦み、自分一人で考え、自分一人で解決すると云ったような傾きの人である。要するに天弦氏の生れながらの性質は哲学者的である。本を読んで、宇宙や人生のことを考えて暮すに適した性格である。幾冊かの本を持って六畳の書斎を自が天地として生き得られるのは、天弦氏のような性質の人であらう。



日本文学電子図書館

---

現代文士廿八人

著 者：中村武羅夫

制作者：宮澤一郎

出版社：日高有倫堂

明治42年7月10日 印刷

明治42年7月16日 発行

---

日本文学電子図書館